

■伊沢修二 教育家。唱歌・体操・教科書・教育学など文部行政で先駆者となる一方、余生を吃音矯正に捧げた。

いざわしゅうじ

尊徳報徳論・1851= 生。信州高遠の下級武士の出身。

ペリー来航・1853= 2歳：

松下村塾・・1856= 5歳：読書，習字を，

蕃書調所・・1857= 6歳：漢学，撃剣，数学を，それぞれ師について学ぶ。

桜田門外変・1860= 9歳：

遣欧使節・・1861=10歳：藩校に学び頭角をあらわす。藩校では，歴史書，漢詩文，和歌，俳諧を学ぶ。

薩摩藩士密航1865=14歳：寮長となり，句読師を兼ねる。また，翻訳書により，洋学を自習し，いくつか製造実験も行う。

大政奉還・・1867=16歳：藩士たちに加わり銃を負って江戸に出る。藩主に従い京都に上り，洋学の師についた後，帰藩。

明治維新・・1868=17歳：

戊辰戦争終・1869=18歳：友人たちと江戸に遊学，親戚の学僕となるかわら，中浜万次郎や米国人に英語を学ぶ。

初の日刊新聞1870=19歳：_藩の貢進生にえられ大学南校に入学。大いに勝気を発揮。

学問のすすめ1872=21歳：_大学南校を退学，文部省出仕となり，第一番中学幹事となる。

明治6年政変 1873=22歳：翻訳課，築造局につとめるが，上司と争い辞職。工部省に転じ，測量司に任せられる。

佐賀の乱・・1874=23歳：結婚。再び文部省に出仕，*愛知師範学校長となり，付属幼稚園で唱歌遊戯を試みる。

初の民間工場1875=24歳：_師範学科取調員として渡米，ブリッジウォーター師範学校に入学。「教授真法」を出版。

三つの反乱・1876=25歳：_グラハム・ベルに視話法を学ぶ。また，音楽教育の重要性を知り，メーソンのもとで研究する。

(完成した電話機で最初にベルと話したのは伊沢と伝えられている)

西南戦争・・1877=26歳：_師範学校を卒業して，ハーバード大学に入学，理化学を修め，地質研究で各州を旅行して，

大久保暗殺・1878=27歳：_帰国し，音楽教育の必要性を文部省に建言。東京師範学校雇になり，文部省内に体操伝習所を創設。

琉球処分・・1879=28歳：_東京師範学校長となり，教員養成の改革に取り組む。また，建言が受け入れられ音楽取調掛設立，

・・・・1880=29歳：_在米中に知ったメーソンを教師に招く。教科書編纂意見書を提出。

明治14年政変1881=30歳：*掛長になり，メーソンの協力を得て，「小学唱歌集」初編出版(以降三編まで)。

新体詩抄・・1882=31歳：_日本最初の「教育学」と題する書物を刊行。メーソンが帰国。

秩父事件・・1884=33歳：_「小学読本」を出版。調査課長を兼務して，秋田，山形県を巡視し，問題を認識。

内閣発足・・1885=34歳：_音楽取調所長，文部省権大書記官を経て，

帝国大学始・1886=35歳：_文部省編輯局長に任命され，

国民之友始・1887=36歳：_「尋常小学読本」を刊行。初めて日食の観測に成功。

初の対等条約1888=37歳：_音楽取調掛から発展した東京音楽学校の初代校長となる。

帝国憲法発布1889=38歳：_東京市会議員，小石川区会議員。「進化原論」翻訳出版。

帝国議会始・1890=39歳：_一時，東京盲啞学校長を兼務。_国家教育社を創設，社長に推される。機関誌「国家教育」も創刊。

足尾鉞毒始・1891=40歳：_日本最初の「教育学」と題する書物を刊行。メーソンが帰国。

大本教・・・1892=41歳：_国立教育期成同盟を組織し，忠君愛国の主義を鼓吹。

郡司千島探検1893=42歳：_井上文部大臣と悶着。

日清戦争始・1894=43歳：

日清戦争終・1895=44歳：_台湾総督府随員となって台湾に渡り，直ちに改革に着手するが，北白川宮が現地で急逝したため，帰国。

白馬会・・・1896=45歳：_現地に残っていた部下が惨殺される事件が発生。台湾総督府民政局学務部長として再渡台。

八幡製鉄始・1897=46歳：_「混和主義」の立場に立って現地人の教育にあたるが，長官と意見が対立して学務部長を非職となる。

子規句歌革新1898=47歳：_「日台小辞典」を出版。訪日のベル博士と再会，通訳をつとめる。

Bushidou・・1899=48歳：_教育費問題の委員などを経て，_東京高等師範学校長に任せられる。

ピアノ国産化・1900=49歳：_修身教科書や教員検定の委員にもなるが，*病を得て，学校長を辞す。

田中正造直訴1901=50歳：_「視話法」発行。病から回復，東北地方で視話法を講習。また，学制調査委員として調査を実施。

日比谷公園・1903=52歳：_病の時に得た信仰体験を発表。吃音矯正のための{楽石社}をスタートさせる。

この間，その後も教育に関する諸問題について建議を続ける。

日露戦争終・1905=54歳：

満鉄発足・・1906=55歳：_数年にわたる吃音矯正への尽力に対し，勲章。

韓国反日暴動1907=56歳：_楽石学院新築。

伊藤博文暗殺1909=58歳：_「楽石叢誌」出版。

吃音矯正への取り組みを続け，助成金も下付されるようになる。

大逆事件判決1911=60歳：_内務大臣，続いて文部大臣が{楽石社}を視察。

明治天皇没・1912=61歳：

第一次大戦始1914=63歳：

*引き続き全国，さらには中国にまで，吃音矯正事業の展開を図るが，

ロシア革命・1917=66歳：_脳出血のため_没した。